1．埋蔵文化財包蔵地

No.	名称	種類	所在地	時代	主要な検出遺構	主要な出土遺物	地図
1	我堂南遺跡	集落跡	天美我堂2・3	古墳～中世			A4 A5
2	大和川今池遺跡	集落跡 / 祭祀遺跡 / 古墳 / 生産遺跡	天美西1～8 / 天美我堂4～7	旧石器～中世	【古墳時代】竪穴住居、掘立柱建物、古墳(方墳) 【飛鳥～鎌倉時代】井戸	【旧石器時代】ナイフ形石器 【縄文時代】有舌尖頭器 【古墳時代】金銅製鈴、ヒスイ製勾玉、鞆式系土器、埴輪 【古代～中世】「山上」墨書土器、白磁、包丁、刀、鉄鏃、砥石、鍛冶滓、「和田明師」銅鈴、瓦	A2 A3 A4 B2 B3 B4
3	城連寺東遺跡	集落跡	天美比2	古墳～中世			C1 C2
4	城連寺遺跡	集落跡 / 祭祀遺跡	天美比3・5	弥生～近世			B1 B2 C1 C2
5	池内遺跡	集落跡 / その他の墓 / 生産遺跡	天美比1・6 / 天美東3・5	弥生～近世	【弥生時代】竪穴住居、掘立柱建物、水田 【古墳時代】方形周溝墓 【平安時代】掘立柱建物、土坑墓、井戸	【弥生時代】前期彩文土器 【平安時代】「相野宮」墨書土器、硯、飾帯、銅鈴、輪状鐙	B2 C2
6	天美東1丁目遺跡	集落跡	天美東1	中世			C3
7	堀遺跡	集落跡 / 生産遺跡	天美南4・5	古墳～近世	【古墳時代】掘立柱建物 【飛鳥時代】掘立柱建物 【奈良時代】掘立柱建物、水田、井戸 【中世】掘立柱建物、水田、墓	【奈良～平安時代】滑石製紡錘車 【奈良時代】瓦、破石	B3 B4 C3 C4
8	天美南遺跡	集落跡	天美南2	弥生～古墳			C3
9	高木遺跡	集落跡	天美南5	弥生～近世	【弥生時代】竪穴住居、掘立柱建物 【奈良～平安時代】掘立柱建物 【中世】掘立柱建物、井戸	【奈良～平安時代】海獣葡萄鏡、下駄、緑釉陶器 【中世】青白磁	B4 B5
10	清水遺跡	集落跡	北新町6 / 南新町5・6	古墳～中世	【古墳時代】掘立柱建物 【奈良時代】条里坪境溝		B5 C5
11	布忍遺跡	集落跡 / 祭祀遺跡	北新町1・2 / 南新町1	弥生～近世	【平安時代】掘立柱建物 【鎌倉時代】井戸	【平安時代】瓦	B4 B5 C4 C5
12	鍵田遺跡	集落跡	南新町4	古墳			B6
13	南新町遺跡	集落跡	南新町2・3	縄文～中世	【古墳時代】竪穴住居 【飛鳥時代】掘立柱建物、道路側溝 【平安時代】掘立柱建物、井戸	【奈良時代】須恵器、ヒスイ 【平安時代】「円」墨書土器、斎串、石帯(大鞆)、瓦	C5 C6
14	東新町遺跡	集落跡 / その他の墓	東新町1～3 / 田井城6 / 天美南1	縄文～弥生時代	【縄文～弥生時代】地震噴砂 【弥生時代】掘立柱建物、井戸 【古墳時代】方形周溝墓 【飛鳥時代】道路側溝 【平安時代】掘立柱建物	【弥生時代】石庖丁、石鏃、弥生土器	C4 C5 D4 D5
15	河合遺跡	集落跡 / 官衙跡	河合1～6	弥生～近世	【飛鳥～奈良時代】大溝 【奈良時代】大型掘立柱建物群、井戸 【鎌倉時代】掘立柱建物	【飛鳥～奈良時代】鍛冶滓、円形鍛冶炉、瓦、墨書土器 【奈良時代】曲物、斎串、瓦、墨書土器 【鎌倉時代】碁、青白磁	C6 C7 D6 D7
16	高見の里遺跡	集落跡	高見の里1～6	縄文～近世	【平安～鎌倉時代】掘立柱建物　井戸	【弥生時代】磨製石剣 【古墳時代】鉄斧 【平安～鎌倉時代】桝、曲物、青白磁	D5 D6
17	三宅西遺跡	集落跡 / その他の墓 / 生産遺跡	三宅西5～7 / 三宅中7	縄文～中世	【弥生時代】竪穴住居、方形周溝墓 【古墳時代】水利施設	【縄文時代】後期中葉土器 【古墳時代】百済土器	D2
18	田池下遺跡	集落跡	三宅西2	古墳～中世			D3
19	三宅西4丁目遺跡	集落跡	三宅西4	弥生			D2
20	三宅遺跡	集落跡	三宅中1～8	弥生～近世	【平安時代】掘立柱建物、井戸 【中世】掘立柱建物	【平安時代】「大效殿」墨書曲物片	D2～4 E2～4
21	三宅東遺跡	集落跡	三宅東6・7	古墳～中世		【古代】土師器、須恵器、瓦	E2 E2
22	蔵重遺跡	集落跡	三宅東3・4 / 別所7	弥生～近世			E2 E3 E4 F2
23	阿保遺跡	集落跡 / 官衙跡 / 生産遺跡	阿保1～7	弥生～近世	【古墳時代】水田 【飛鳥時代】掘立柱建物 【奈良～平安時代】掘立柱建物 【中世】掘立柱建物、井戸	【奈良～平安時代】製塩土器、瓦 【中世】曲物	D4 D5 E4 E5
24	上田町遺跡	集落跡 / 生産遺跡	阿保1 / 上田1～7 / 柴垣1	旧石器～近世	【弥生時代】竪穴住居、井戸 【古墳時代】竪穴住居、井戸 【飛鳥時代】掘立柱建物 【奈良～平安時代】掘立柱建物、条里坪境大溝 【中世】掘立柱建物、井戸	【縄文時代】有舌尖頭器 【弥生時代】打製石鏃、木製農具、小型紡製錘 【古墳時代】鞆、埴輪、鞆式系土器 【奈良～平安時代】「神方朝霞」銅鈴、滑石製石玉	D5 D6 E5～7
25	新堂遺跡	集落跡 / 古墳	新堂1～4 / 高見の里5・6 / 柴垣1	旧石器～近世	【古墳時代】古墳、掘立柱建物、横穴 【平安～鎌倉時代】掘立柱建物、井戸	【縄文時代】石棒 【古墳時代】埴輪 【平安～鎌倉時代】「乾元大寶」銅銭	D6 D7 E6 E7
26	岡遺跡	集落跡 / 祭祀遺跡 / 古墳 / 生産遺跡	柴垣1 / 岡2～5	旧石器～近世	【古墳時代】古墳 【古墳時代】ナイフ形石器 【平安～鎌倉時代】河内鋳物師工房、掘立柱建物、井戸	【旧石器時代】ナイフ形石器 【縄文時代】有舌尖頭器 【古墳時代】須恵器 【平安～鎌倉時代】銅型、鉄滓、石鹸、青白磁、瓦	E7 E8
27	立部遺跡	集落跡 / 祭祀遺跡 / 古墳 / その他の墓 / 生産遺跡	柴垣2 / 立部1～5	縄文～近世	【古墳時代】古墳群 【古墳時代】火葬墓 【平安時代】河内鋳物師工房、火葬墓、木棺墓群、掘立柱建物、井戸 【鎌倉時代】河内鋳物師工房、掘立柱建物 【室町時代】掘立柱建物、井戸	【旧石器時代】ナイフ形石器 【縄文時代】滑石製子持勾玉、埴輪 【平安時代】「東寺」墨書土器、「西海原」・「摩尼」線刻土製品、銅型 【鎌倉時代】銅型、鉄滓、青白磁 【室町時代】漆器椀、墨書土器、吊灯木棚	E7 E8 F6～8
28	清堂遺跡	集落跡	岡1・6・7 / 丹南1・2	旧石器～中世	【古墳時代】井戸 【平安～鎌倉時代】掘立柱建物、井戸	【旧石器時代】ナイフ形石器 【平安～鎌倉時代】石鹸	D7～9 E8 E9
29	丹南遺跡	集落跡 / 官衙跡 / 社寺跡 / 城館跡 / その他の墓 / 生産遺跡 / 藩校跡	丹南2～5	縄文～近世	【飛鳥～平安時代】掘立柱建物、井戸 【中世】河内鋳物師工房 掘立柱建物、井戸、寺院、木棺墓 【近世】丹南藩陣屋、丹南学校	【縄文時代】有舌尖頭器 【古墳時代】須恵器 【中世】「来迎寺」軒丸瓦、「南無□□□」軒平瓦 【近世】赤絵大皿、水滴、硯	E8 E9
30	西大塚遺跡	集落跡	西大塚1, 西野久1	中世			F5
31	一津屋町遺跡	集落跡 / 古墳	一津屋1～5	縄文～近世	【古墳時代】古墳 【奈良時代】井戸 【平安～鎌倉時代】掘立柱建物	【古墳時代】埴輪 【奈良時代】櫛、斎串、銅製帯金具蛇尾、人面須恵土器、「転」墨書土器、「萬年通寶」銅銭	F4 F5 G4 G5
32	別所遺跡	集落跡 / 城館跡	別所7～9	古墳、奈良、中世	【奈良時代】掘立柱建物　井戸	【古墳時代】埴輪	F2 F3
33	大堀遺跡	集落跡 / 城館跡 / 社寺跡	大堀1～4	旧石器～近世	【古墳時代】竪穴住居 【奈良時代】掘立柱建物	【古墳時代】埴輪 【奈良時代】製塩土器、瓦	G2～4
34	屋後遺跡	集落跡	小川6	古墳～中世		【古墳時代】埴輪	G3 H3
35	小川遺跡	集落跡	小川1・4・5	古墳～中世	【平安時代】井戸 【平安時代】井戸 【鎌倉時代】井戸	【平安時代】曲物 【鎌倉時代】曲物	G3 G4 H3 H4
36	津堂遺跡	集落跡	小川2・3	縄文～古墳中世			H4
37	若林遺跡	集落跡	若林2	縄文～中世	【弥生時代】井戸 【古墳時代】掘立柱建物　井戸 【平安時代】掘立柱建物　井戸	【弥生時代】弥生中期・後期土器 【古墳時代】埴輪	H3
38	樋野ケ池窯跡	生産遺跡	上田6	古墳	須恵器窯区原	【古墳時代】須恵器	F6
39	狐塚古墳群	古墳	天美西1	古墳	前方後円墳(全墳)		B3
40	権現山古墳群	古墳	三宅中6	古墳	前方後円墳(全墳)		D2 E2
41	三宅古墳群	古墳	三宅中4	古墳	帆立貝式古墳(全墳)		E2
42	立部古墳群	古墳	立部3	古墳	円墳・方墳(全墳)	【古墳時代】武人形埴輪	F7
43	大塚山古墳	古墳	西大塚1	古墳、中世	前方後円墳(全墳) 【中世】掘立柱建物		F5 F6
44	山ノ内古墳群	城館跡	上田5	古墳	前方後円墳(全墳)		E5 E6
45	川ノ上古墳群	古墳	一津屋1	古墳	前方後円墳(全墳)	【古墳時代】巫女形埴輪、籠形埴輪	G4
46	一津屋古墳	古墳	一津屋5	古墳、中世	前方後円墳(半墳)		G5
47	長尾街道	街道	天美我堂～一津屋	飛鳥～近世	【飛鳥～奈良時代】道路側溝	【飛鳥～奈良時代】墨書土器	A5～G5
48	竹内街道	街道	岡～立部	飛鳥～近世	【近世】道路側溝		D6～F8
49	難波大道跡	古道	天美西	飛鳥～奈良	【飛鳥時代】道路側溝		A1～5
50	丹比大溝	暗渠	一津屋～高見の里 / 河合	飛鳥～近世	【飛鳥～中世】大溝	【奈良時代】人形、櫛、下駄、人面墨書土器、「神方朝霞」銅銭	C7～F5
51	蔵重西遺跡	集落跡 / 官衙跡	三宅東4・5	奈良～中世	【奈良～平安時代】掘立柱建物　井戸	【奈良～平安時代】円面硯　瓦	E2 E3 F2 F3
52	下高野街道	街道	天美西～河合	平安～近世			B1～C7
53	中高野街道	街道	三宅中～丹南	平安～近世			E1～9
54	天美西遺跡	集落跡	天美東9	弥生～中世	【中世】掘立柱建物		B3
55	天美北6丁目北遺跡	集落跡	天美北6	弥生～近世			B2
56	天美北6丁目南遺跡	集落跡	天美北6	弥生～近世			B2
57	若山遺跡	生産遺跡	上田6	古墳～近世	【中世～近世】水田、井戸	【古墳時代】土師器 【中近世】瓦器椀、陶磁器	E6 F6
58	新堂遺跡B地点	集落跡	新堂4	弥生		【弥生時代】弥生土器	D7

2．寺院

No.	名称	所在地	宗派	概要	地図
1	善正寺	天美我堂7	浄土真宗(東)	大阪市平野区にあった真宗派・金剛乗院が、室町時代・明応年間(1492～1500)に改宗し現在の親勝寺の地に移転した。浄願寺と称する。安土桃山時代・文禄2年(1593)創建説の時に「善正寺」と改号。その後、江戸時代・元和2年(1616)に狭村へ移り、寛永18年(1641)に現在の地に移った。	A4
2	安樂寺	天美西2	浄土真宗(東)	江戸時代・延宝7年(1679)に僧光静(勝)が創建したと伝える。	B2
3	施福寺	天美西3	浄土真宗(東)	創建時期は不明。薬師、地蔵堂の薬師如来・日光菩薩・月光菩薩の三尊は、元は薬師堂(寺院No.57)のもので、元和元年(1615)大阪夏の陣で薬師堂が焼失したため祀ったと伝える。	B2
4	最勝寺	天美北5	浄土真宗(東)	善正寺が中興の祖とした後に現った寺院で、江戸時代・寛永12年(1635)に現存する。境内には、昭和の初め頃まで若者たちが力試しに使った4個の力石がある。	B2
5	安明寺	天美北5		南北朝時代・元中年間(1384～1392)に、楠木氏一族の和田正關(正道)の家臣・城連寺反明が創建したと伝える。江戸時代・宝永元年(1704)の大和川付け替えで寺地は失われ、嘉永年間(1848～1853)に、最勝寺境内に小堂を設け移転した。	B2
6	敬恩寺	天美東8	浄土真宗(西)	室町時代・永正11年(1514)に真宗派から改宗したと伝える。明治6年(1873)に89番小学が置かれ、明治8年(1875)に池内小学校(現天美小学校)へと校舎を変更した。	B3
7	真正寺	天美南4	浄土真宗(東)	江戸時代・寛文2年(1662)僧法嗣の浄誓によると伝える。江戸時代・寛永9年(1609)に僧法恵が創建したとも言われる。	B4
8	大林寺	北新町1	融通念仏宗	明治11年(1878)に「念仏寺」の跡地に、堺市泉北ニュータウン大鷹ヶ丘地区を開発の際に移転した。明治に廃寺となった永興寺(寺院No.53)の本尊・十一面観音立像等を安置している。同内閣三十三所の札所。【市指定有形文化財】十一面観音立像(平安時代後期)　平成21年(2009)2月3日指定	C5
9	布忍寺(東之坊)	北新町3	真言宗	古墳時代・用明天皇2年(587)に聖徳太子が創建したと伝える。平安時代に創建されたと思う(東興寺)(寺院No.53)の開創の名残りとも考えられている。	B4
10	圓成寺	北新町5	浄土真宗(西)	創建年代は不詳だが、江戸時代前半には堂塔量として寺観が整っていたとされる。	B4
11	教通寺	南新町1	浄土真宗(西)	創建年代は不詳だが、正徳元年(1711)時点で住職は13代目にあたっている。山門は昭和17年に解散した「更池親行」より移築されたものである。	B4
12	多聞院	南新町1	単立	平安時代・貞治3年(1089)に永興寺僧が創建し、鎌倉期又は鎌倉の多聞天を安置していたと伝える。江戸時代・寛政8年(1796)5代住職龍昌が堺・泉北地域の「七所巡り」の札所に移転されている。	C5
13	稱名寺	南新町2	浄土真宗(西)	堅道場より発祥したと思われ、江戸時代・寛享4年(1687)に現寺号を与えられたとされる。	C6
14	浄林寺	南新町5	浄土真宗(東)	元は真宗宗派で、江戸時代・元禄11年(1698)に僧誠況が改宗。その後、寺運が衰えるが享保2年(1717)に僧慈顧と僧龍祐により再興された。浄林寺本堂正面には慧顧作の「浄林寺」扁額が掲げられている。	B5
15	宝泉寺	南新町6	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨3年(1323)に、法眼上人の念仏勧進道場として創建されたと伝える。	B5
16	浄信寺	東新町5	浄土真宗(東)	堅道場より発祥したと思われる。かつて本堂に掲かれていた文政2年(1819)年銘の瓦が残る。	C6
17	稱念寺	河合3	浄土真宗(東)	鎌倉時代・弘安6年(1283)に、摂津源氏の祖である源満仲の家臣・多田仲光の末裔により創建されたと伝える。	D7
18	敬念寺	高見の里3	浄土真宗(東)	室町時代・天文元年(1532)の創建と伝える。江戸時代・延宝年間(1673～1680)に現寺号を与えられた。本堂には建永7年(1713)再建の棟札が残り、太鼓橋には明治12年(1879)再建の棟札が残る。	D5
19	善宗寺	田井城5	日蓮宗	江戸時代・宝暦8年(1758)に現在の大阪市中央区より7日に創建されたと伝える。明治の廃仏毀釈の時期に、現在の地に移転した。	D4
20	陽雲寺	田井城5	浄土真宗(東)	鎌倉時代・嘉暦元年(1326)に創建されたと伝える。江戸時代に三宅村の檀家が7日に創建されたと伝える。本堂は室町時代・明応7年(1498)年僧快智の建立とされる。本堂に江戸時代・天保12年(1841)再建の棟札が残り、太鼓橋に文化元年(1804)の棟札が残る。	D4
21	西方寺	三宅中5	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨年間(1321～1323)に、法眼上人の念仏勧進道場として創建されたと伝える。1820年代に現在の三宅中に移転された。	D3
22	善長寺	三宅中5	浄土真宗(東)	元は天台宗で、鎌倉時代に僧成教が創建したと伝える。江戸時代に三宅村の檀家が7日に創建されたと伝える。本堂は室町時代・文亀元年(1501)に焼失し、江戸時代・明暦元年(1655)に僧旗休が再建した。	D3
23	願久寺	三宅中5	浄土真宗(東)	元は天台宗で、鎌倉時代に僧了願が創建したと伝える。江戸時代に三宅村の檀家が7日に創建されたと伝える。明治7年(1874)に善長寺とともに三宅学校(現三宅小学校)が置かれた。	E3
24	玉應寺	三宅中5	浄土真宗(東)	室町時代・明応元年(1492)に僧正信が創建したと伝える。	D3
25	西徳寺	阿保5	浄土真宗(東)	室町時代・永正3年(1506)の創建と伝える。	E4
26	安養寺	阿保6	浄土真宗(東)	江戸時代・寛文12年(1672)の創建と伝える。	E4
27	願正寺	上田7	浄土真宗(東)	元は真言宗で、江戸時代・寛永年間(1624～1643)に中興したと伝える。本堂には宝永2年(1705)と文政4年(1821)の棟札が残る。明治7年(1874)には松原小学校が置かれた。	E6
28	良念寺	新堂3	浄土真宗(東)	室町時代・永正12年(1515)に本願寺より本尊を下付されたことから、この頃の創建と思われる。	E7
29	浄光寺	新堂3	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨2年(1322)に法眼上人の念仏勧進道場として創建されたと伝える。室町時代・永正元年(1504)に焼失し、江戸時代・明暦元年(1655)に僧旗休が再建した。	E7
30	泉福寺	岡5	浄土真宗(東)	室町時代・弘治元年(1555)に僧願法が創建したと伝える。山門前の地蔵堂にある3体の石仏は毎年の地蔵盆に本堂に移される。その内1体には江戸時代・正德3年(1713)銘がある。	E8
31	圓正寺	岡5	浄土真宗(東)	用明天皇の時(586～587)の創建と伝える。元は丹北郡大縣にあり「小山上面(縣寺)」と号していたが明治2年、江戸時代・寛永年間(1624～43)に僧正善が再興したと伝える。	E8
32	来迎寺	丹南3	融通念仏宗	天平年間(729～748)の創建と伝える。鎌倉時代・正和年間(1312～1316)法則上人により中興し、江戸時代・元和9年(1623)には、高木氏の菩提寺として再興。六宗師の一つ「儀鸞禅師の辻本寺院。【府指定天然記念物】来迎寺のいぶき　昭和56年(1981)6月1日指定	E8
33	栄久寺	立部1	浄土真宗(東)	元は「観音寺」という真言宗寺院で、室町時代・明応年間(1492～1500)に改宗・改号したと伝える。安土桃山時代・天正8年(1580)、石山合戦本願後に教如が河内国門徒衆と坊主衆に宛てた書状が残る。【市指定有形文化財】絵本地蔵菩薩(上人坊)　平成25年(2013)12月20日指定	F7
34	安養寺	西大塚1	浄土真宗(西)	創建年代は不詳である。長く宗旨野市島泉所在「明教寺」の末寺であった。	F6
35	大念寺	西大塚1	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨年間(1321～1323)に、法眼上人の念仏勧進道場として創建されたと伝える。	F6
36	西法寺	西野久1	浄土真宗(東)	江戸時代・寛文9年(1669)に勢誉場より発祥したと伝える。昭和17年までは、東本願寺と西本願寺の両派に属していた。	F5
37	法泉寺	一津屋1	浄土真宗(西)	元は真言宗で、室町時代・天文2年(1533)に僧淨信により改宗したと伝えられている。江戸時代は興正寺(現京都市下京区)の末寺であった。	G5
38	願随寺	別所6	浄土真宗(東)	室町時代の創建と伝えられ、江戸時代・寛文8年(1669)頃には寺院化していたと思われる。本堂の欄間には宝暦6年(1756)銘と寄進者である河内屋治山(喜右衛門)の名が残っている。	F3
39	教專寺	大堀3	浄土真宗(西)	堅道場より発祥したと思われる。明治7年(1874)には大堀小学校(現重我小学校)が置かれた。	G2
40	不退寺	小川4	浄土真宗(東)	江戸時代・貞享3年(1686)に僧善入が創建したと伝える。	H3
41	正定寺	小川4	浄土真宗(西)	江戸時代・元禄6年(1693)に小川村の谷与次兵衛が創建したと伝えられる。現在は不退寺と同じ建物に併設されている。	H3
42	立法寺	若林1	浄土真宗(東)	文禄3年(1594)以前に慧道場として発祥したとされ、江戸時代・寛文8年(1668)に寺号が与えられた。	H3
43	本了寺	若林1	日蓮宗	江戸時代・元和6年(1620)に僧日空が創建。若林の郷士・長尾氏の菩提寺で江戸時代末に僧日表により中興した。境内には、元和3年(1617)役の初代長尾輔虎(日優)の五輪塔が残る。	H3
44	東池庵(東池寺)	若林1	日蓮宗	江戸時代・元和元年(1615)に僧日空が創建したと伝えられるが、慶長7年(1602)創建ともある。明和年間(1764～1771)に僧日理により中興。	H3
45	福應寺跡	新堂2 / 上田7	浄土真宗(東)	江戸時代・寛永年間(1624～1643)の創建と伝えられる。昭和9年(1934)に再建を予定したが、台風被害のため中止された。現在、跡地(上田7)には江戸時代の墓石2基と大正元年(1912)に建てられた「福應地蔵尊」石碑が残されている。明治7年(1874)には松原小学校の分教場が置かれた。	E6
46	浄念寺跡	天美南4	融通念仏宗	江戸時代・慶長18年(1613)年に堺村の檀那が創建したと伝える。近代に廃寺となったが、跡地には檀那が建てた浄念庵がある本尊等が祀られている。また、文化6年(1809)銘の延命地蔵が祀られており、毎年8月15地蔵盆が行われている。	B4
47	西蓮寺跡	東新町5	浄土真宗(西)	創建年不明で、江戸時代・寛政4年(1792)頃には寺名が確認できる。大正時代末期頃に廃寺となった。	C6
48	豊興寺跡	三宅中4	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨年間(1321～1323)に、法眼上人の念仏勧進道場として創建されたと伝える。明治30年に廃寺となり、本尊は西方寺(寺院No.21)に引き継がれた。跡地には豊興寺地蔵尊、三宅、「萬年通寶」銅銭	E3
49	光輪寺跡	三宅中4	浄土真宗(東)	昭和初期に廃寺となった。	E2 E3
50	神宮寺跡	天美我堂4	黄檗宗	現在の我堂八幡宮の境内地(神社No.1)に存在したが明治時代初期に廃寺となった。本尊・阿弥陀如来像は、善正寺(寺院No.1)に引き継がれた。	A4 B4
51	梅松院(三宅寺)跡	三宅中4	不明	巫倉神社の神宮寺で、平安時代・天慶5年(942)の創建と伝えられる。明治4年(1871)に廃寺となり、本尊・阿弥陀如来立像等は西方寺(寺院No.21)に引き継がれた。	E3
52	観念寺跡	上田7	真言宗	僧秀盛が室町時代・永禄年間(1558～1569)に創建したと伝える。柴離神社(神社No.8)の神宮寺で、明治5年(1872)に廃寺となった。本尊・十一面観音像は、近くの観音堂へ引き継がれた。現在の柴離神社境門は、観念寺の山門であったもの。	E6
53	布忍寺(永興寺)跡	北新町2・5 / 南新町1・6	不明	平安時代・貞治3年(1089)の創建で、中世には七堂伽藍を備えていたと伝える。大林寺や布忍寺に縁起が残る。明治6年(1873)に廃寺となり、本尊・十一面観音立像は大林寺に移された。堂宇は第32番小学として利用され、明治8年(1875)に向井小学校(現布忍小学校)へと校名を変えた。	B4 B5 C4 C5
54	東之坊跡	新堂3	真言宗	室町時代・永禄年間(1558～1569)に僧秀盛が創建したと伝える。廃寺となった後、本尊・地蔵菩薩像は良念寺(寺院No.28)に引き継がれた。	E7
55	安明寺跡	天美北3～5	不明	「寺院No.5　安明寺」を参照。	C1
56	山寺廃寺	天美我堂5	不明	小字名に「山寺」という所があり、発掘調査で平安時代後期の瓦が多数出土した。	B3 B4
57	薬師堂推定地	天美西4	不明	平安時代創建の七堂伽藍を備える大寺で、大坂夏の陣で焦土となったと伝える。小字名に「薬師堂」という所があり、強瀬寺(寺院No.3)の薬師如来像他2体は当寺のものとされる。	A2 A3 B2 B3
58	観音堂廃寺	天美西7	不明	小字名に「観音堂」という所があり、発掘調査で平安時代後期の瓦が多数出土した。	A2
59	大日堂推定地	天美西1 / 天美東8 / 天美南6	不明	小字名に「大日」という所があり、周辺の調査より室町時代の寺院と推定される。	B3
60	大堀廃寺	大堀2	不明	発掘調査で奈良時代の瓦が出土。	G3
61	大和寺跡	丹南4	不明	小字名に「大和寺」という所があり、発掘調査で「南無□□□□」を記す軒平瓦のほか、鎌倉～室町時代の瓦が多数出土した。また、「丹南村明細帳」に「大和寺」の寺名が見られる。	E9
62	薬泉寺跡	岡5	不明	小字名に「薬仙寺」という所があり、発掘調査で鎌倉時代の瓦が多数出土した。また、広陵寺文書の「石源庄年貢目録」に「薬泉寺」という寺名が見られる。	E8
63	観音寺推定地	立部2	不明	小字名に「観音寺」という所がある。「理蔵文化財包蔵地No.27 立部遺跡」を参照。	F7 F8
64	三昧堂推定地	別所6	不明	伝承が残る。	F3
65	善伸寺推定地	河合2	不明	小字名に「善伸寺」という所がある。	C6 D6
66	八王寺推定地	河合1	不明	小字名に「八王寺」という所がある。	D7
67	善乗寺推定地	三宅西2	不明	小字名に「善乗寺」という所がある。	D4
68	安時寺推定地	岡1	不明	小字名に「安時寺」という所がある。	E7
69	弥生寺推定地	立部1	不明	小字名に「弥生寺」という所がある。	E7 F8 F7 F8
70	善光寺推定地	西大塚1	不明	小字名に「善光寺」という所がある。	F5
71	新堂坊推定地	一津屋3	不明	小字名に「新堂坊」という所がある。	F4

3．神社

No.	名称	所在地	祭神	概要	地図
1	我堂八幡宮(応神天皇)	天美我堂4	誉田別命	江戸時代には「十石社明神」や「氏神十石社神」等と称し、明治時代には「八幡神社」、大正時代には「産土神社」と呼ばれた。江戸時代末では、神宮寺(寺院No.50)と習合していたが、明治時代初期に寺院は廃寺となった。境内には若者たちが力試しに使った明治初期の力石が6個発見されている。	A4 B4
2	布忍神社	北新町2	速須佐男之命 八重事代主之命 武甕槌雄之命	平安時代・貞治3年(1089)の創建とされる布忍寺(永興寺)の鎮守社として創建されたとされる。本殿は一間社流造檜皮葺で、昭和57年(1982)の調査・改修時に「寛文三年(1663)銘棟鎮札」が発見された。本殿にかかる「布忍宮」扁額は、寛文元年(1661)に米田し奥殿匠棚本山方福寺第五世となった高泉性盛の筆である。境内には合祀された春日神社、水分神社があるほか、神木であるクスやムクなどの大木が見られる。【府指定有形文化財】本殿(江戸期)　附木造　平成14年(2002)1月29日指定【市指定有形文化財】布忍八坂扁額　宝永2年(1705)奉納　平成21年(2009)2月3日指定	C5
3	施福寺(川上神社)	天美西2	素戔嗚命 天児屋根命 事代主命	元は現在よりも広い境内を有し、南面していたという。明治41年(1908)に金剛神社(現堺市北区)に合祀されたが、現在は元の場所に戻されている。境内の手水石には元文5年(1740)の年号と小槌天王の名が刻まれている。	D7
4	高見神社	高見の里3	シンメイさん	創建年不明。祭神のシンメイさんは、女神で、母夜、柴離神社へ行かれるので夜間は留守だという伝承がある。境内には太ノキの大木が見られる。	D6
5	田坐神社	田井城5	依顕屋根命 / 鳴雷命 / 櫛御食事気世赤神	延喜式内社で、平安時代・貞観4年(862)以前の創建と伝える。古代氏族・田井氏の祖を祀ると言われる。明治41年(1908)に柴離神社(神社No.6)に合祀されたが、現在は元の場所に戻されている。境内には「クロガネ木」の大木が見られる。	D4
6	屯倉神社	三宅中4	菅原道真 須佐之男命 品陀別命	平安時代・天慶5年(942)の創建と伝える。江戸時代末では梅松院と習合していたが、明治4年(1871)に梅松院(寺院No.51)は廃寺となった。境内には市杵島姫社、琴平神社、天照大神社、素戔嗚神社、大物主社、日吉神社、天津神社が祀られている。また、菅原道真公が大宰府へ赴く際に立ち寄り腰かけたとされる神形石があり、クスやムクの大木も見られる。	E3
7	津連神社(酒屋機関)	三宅中4	津連命	延喜式内社で、平安時代・貞観4年(862)以前の創建と伝える。古代氏族・中臣酒屋氏の祖を祀るとされる。本来の社地は三宅村西方であったが、明治40年(1907)に屯倉神社に合祀された。	E3
8	柴離神社	天美我堂～一津屋	菅原道真	平安時代に平城天皇の第一皇子で歌人・在原業平の父である阿保親王が当地で住まいしたという伝承がある。本殿は「江戸期中期に建立されたと思われる一間社流造で、拝殿天井は狭い板張り花天井である。拝殿は天保13年(1842)の建築で、拝殿横には、合祀されている阿保親王社、厳島姫命社がある。主祭神はこれらの大木が見られる。	E4
9	斜向遊神	高見の里～新堂	近世	大津道標定地の上に建てられた。当地へ移る前は、「大津道」と刻まれた石碑が、明治6年に「斜向遊神」と改称された。本来の社地は三宅村西方であったが、明治40年(1907)に屯倉神社に合祀された。	D5～E7
10	難波天満宮	天美西	菅原道真	難波宮中軸線朱雀大路を南下した場所で、発掘調査により幅約18mの南北道路が発見された。「日本書紀」等に記載が見える「大道」と推定される。	A1～A5
11	大津道推定地	天美我堂～一津屋	古代	「日本書紀」等に記載が見える古代の官道で、長尾街道の初源とする説がある。長尾街道沿いの発掘調査で道路側溝を確認した。	A5～G5
12	丹比道推定地	岡～立部	古代	「日本書紀」等に